

# 自閉スペクトラム症児における社会的参照の評価

—視線運動と共同注意の発達との関連に着目して—

○小林千紗<sup>1</sup> 藤本夏美<sup>2</sup> 根本由香里<sup>3</sup> 李晨<sup>3</sup> 松田壮一郎<sup>4</sup> 野呂文行<sup>4</sup>

(<sup>1</sup>大阪府立西浦支援学校) (<sup>2</sup>筑波大学大学院人間総合科学研究科)

(<sup>3</sup>筑波大学大学院人間総合科学学術院) (<sup>4</sup>筑波大学人間系)

KEY WORDS: 自閉スペクトラム症 社会的参照 共同注意

## 【目的】

社会的参照とは、新奇刺激条件下で生起する社会的相互作用であり、(1) 相手へ視線を向ける観察反応と、(2) 相手が提示した感情的な刺激に応じた反応を示す条件性弁別反応、の二つの行動連鎖からなる (DeQuinzio et al., 2016)。自閉スペクトラム症 (以下, ASD) 児は社会的参照行動に欠如を示すことや (Sigman et al., 1992)、共同注意との関連も知られているが (Cornew et al., 2012)、その両方を行動観察した報告は少ない。本研究では、ASD 児と定型発達 (以下, TD) 児を対象に行動観察を実施し、(1) 社会的参照時における視線運動の特徴と、(2) 社会的参照と共同注意発達の関連について明らかにすることを目的とした。

## 【方法】

**対象児** ASD 児 5 名 (A～E 児, 平均年齢 5 歳 8 か月)、TD 児 2 名 (F・G 児, 平均年齢 2 歳 8 か月) だった。

**セッティング** 対象児と指導者である大学院生が机を挟んで向かい合って座った。衝立の裏に、新奇刺激の出し入れをする学生と、お面を被った学生が 1 名ずついた。

**教材** 新奇刺激として玩具 4 種とお面 2 種を用意した。



Fig. 1 部屋のセッティング (左) と

Fig. 2 新奇刺激の一部 (中央, 右)

**表情刺激** 指導者が笑顔もしくはしかめ面を 3 試行ずつランダムに提示し、1 名につき 6 試行実施した。笑顔+「かわいいね」もしくは、しかめ面+「嫌だね」と「表情+音声刺激」を提示した。

**従属変数** (1) 新奇刺激を見てから 10 秒以内に指導者の顔を見る反応を顔観察反応と定義し、生起率を算出した。

(2) 顔観察反応が生起し、表情提示から 20 秒間、「新奇刺激への視線移動」と「アイコンタクト」を記録し、5 秒間部分インターバル法を用い、各行動の生起率を算出した。

**手続き** 新奇刺激を見てから 10 秒以内に指導者の顔を見る顔観察反応が生起した場合、指導者は、「表情+音声刺激」を提示した。表情を提示した後、20 秒間対象児の行動を観察した。顔観察反応が生起しなかった場合、新奇刺激を一度撤去した。その後、再度提示して、対象児の視線を指導者の顔に向けてから「表情+音声刺激」を提示した。

**共同注意** 初期社会コミュニケーション尺度 (ESCS; Mundy et al., 2003) のうち、「始発型共同注意」「反応型共同注意」「始発型行動要求」を評価し、熊ら (2010) を参考にスコアリングした。G 児は対象年齢の上限に達していたため実施しなかった。

**倫理的配慮** 対象児の保護者に対し、本研究について書面と口頭による説明をし、同意を得た上で実施した。

## 【結果と考察】

自発的な顔観察反応の生起率を Fig. 3 に示した。TD 児と

比べ ASD 児で低い傾向は先行研究と一致した。また表情提示後の新奇刺激への視線移動とアイコンタクトの生起率を Fig. 4 に示した。TD 児に比べ ASD 児の方がアイコンタクトより刺激を見る時間の割合が大きかった。この結果は、ASD 児の玩具など物に注目が向きやすい特徴や、TD 児が発達初期に他者との相互作用の中で形成した表情刺激による弁別学習の機会が、ASD 児には少ないことが要因として考えられる。以上の結果より、ASD 児が社会的参照を獲得するには、標的行動としての指導が必要であることが示された。

共同注意との関連性については、特に始発型共同注意のスコアが高いほど観察反応の生起率が高い傾向が、本研究で示された。始発型共同注意とは反応型が類似しており、どちらも相手の反応が強化子として機能することなどが、発達の関連性に影響を与えていると考えられる。

本研究では、ASD 児の中でも、E 児のように他の ASD 児と比較して顔観察反応やアイコンタクトの生起率が高く、始発型共同注意スコアも高いケースがあった。今後は、ASD の有無だけでなく、その程度なども含め、社会的参照の獲得に必要な条件を検討することが、より良い指導法の開発に寄与すると考える。

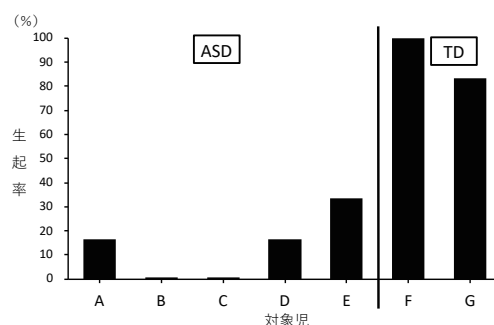


Fig. 3 自発的な顔観察反応の生起率

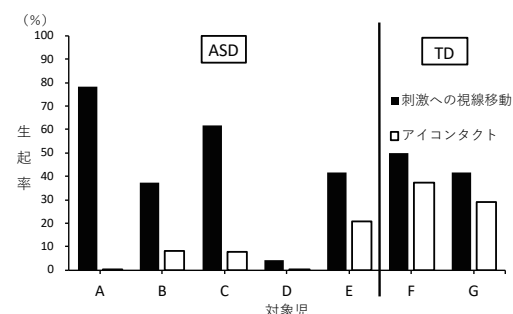


Fig. 4 表情提示後の

新奇刺激への視線移動とアイコンタクトの生起率

## 【引用文献】

Cornew, L., Dobkins, K. R., Akshoomoff, N., McCleery, J. P., & Carver, L. J. (2012) Atypical social referencing in infant siblings of children with autism Spectrum disorders. *Journal of Autism and Developmental Disorders*, 42, 2611-2621.

(KOBAYASHI Chisa, FUJIMOTO Natsumi, NEMOTO Yukari, LI Chen, MATSUDA Soichiro, NORO Fumiyuki)